

平成30年度 諸塚村立七ツ山小学校 学校関係者評価書

4段階評価【A～期待以上 B～期待どおり C～やや期待を下回る D～改善を要する】

諸塚村立七ツ山小学校

分野・領域	本年度の努力事項	評価の結果				平均	総合平均	学校の自己評価結果	自己 評定	学校関係 者評定	学校関係者評価（意見）
		職員	保護者	地域	児童						
1 学習指導	○複式指導並びに個に応じた指導の工夫・改善	3.3	3.8	3.6	4.0	3.7	3.6	○全員の児童が読書感想文や感想画で入賞した。他の作品募集においても最優秀賞等上位入賞したり、新聞掲載されたりして児童のがんばりが目立った。 ○今年度も2年の国語と4・5年の理科を教頭が担当することで複式指導の改善と安全の確保が図られた。 ○どんこ学習ではチームティーティングによる「全校算数」を行い学年の発達段階に応じた問題に取り組みせることで、個に応じた指導を展開し、基礎・基本の定着に務めることができた。 ○図書室環境を整備するとともに、「図書室便り」を発行したり、児童会による取組等による家庭への啓発を行ったりして、家庭での読書を推進しているところである。	A	A	・七ツ山小の子ども達の活躍は、地域としても元気が出るし、とてもありがたい。指導してくださる先生方に感謝している。 ・県の学力調査や全国学力学習状況調査においても小学校・中学校ともに好成績であることは諸塚村の教育が素晴らしいからではないか。
	○家庭と連携した家庭学習習慣の確立	3.8	3.9		3.7	3.8					
	○「はげみ」や「どんこ学習」を活用した基礎・基本の確実な定着	3.5	3.6		3.6	3.6					
	○読書活動の推進	3.5	2.8		3.9	3.4					
2 現職教育	○主題研究の充実	3.6			3.6	3.6	3.7	○主題研究による算数科指導法の研究を中心に、研究授業や相互授業参観を行い、授業改善に努めた結果、問題解決能力の高まりを感じられるようになった。家庭学習は、児童の取組に差が見られるので、励ましながら継続して指導を続けている。 ○校外研修に積極的に参加するとともに、OJT研修も実施し、教員の資質向上に努めている。	A	A	・学級の実態である程度の個人差はあるものの少人数であることを生かして、先生方の努力により、手厚く個別に対応して下さっていることがよく分かった。
	○積極的な自主研修の実施	3.7				3.7					
	○校外研修への積極的参加	3.7				3.7					
3 生徒指導	○報告・連絡・相談の徹底	3.7				3.7	3.6	○生徒指導研修や学級担当者会等を通して、気になる児童の情報交換、共通理解を図り、指導に生かすことができた。 ○定期的なアンケート調査と教育相談を行うことで、児童の問題行動や悩みの早期発見、早期対応に努めることができた。 ○電話連絡や家庭訪問により、気になる児童の学校の様子について保護者に伝える等、連携した指導を意識して取り組んでいるところである。	A	A	・学校では、きちんと挨拶ができていますが、地域では今一歩という児童の姿も見られる。いつでも、どこでも、だれとでもという指導をこれからも続けていってほしい。
	○基本的生活習慣の定着	3.3	3.5	3.6	3.6	3.5					
	○教育相談の実施と充実	3.4	3.9		3.7	3.7					
	○問題行動の早期発見、早期対応と家庭との連携	3.7	3.8		3.5	3.7					
4 道徳・特別活動	○ふるさとを愛する心の育成	3.3	3.7	3.4	3.9	3.6	3.5	○道徳の教科化に伴う年間指導計画の整備、夏季休業中の研修を行った。今後さらに研修の充実を図っていきたい。 ○毎朝の花壇の草取りや校庭の落ち葉集め等を行ったり、地域クリーン作戦で道路の清掃作業に取り組み、地域の為に進んで働く活動を充実させたりすることでボランティア活動を推進した。 ○ふるさと学習（C学習）で地域素材や人材を活用することにより、ふるさとを愛する心の育成につなげることができた。	A	A	・諸塚の産業について学習することで、ふるさとを愛する心情等が育てられる。 ・自分から進んでさっと動ける児童が増えてきた。言われなくても行動できる、気が利く児童の姿には、感動した。
	○道徳の時間の指導法の工夫による道徳的実践力の育成	3.3			3.6	3.5					
	○ボランティア活動参加の推進	3.3	2.9	3.3	3.9	3.3					
	○特色ある教育活動への積極的参加	3.5	3.8	3.7	3.8	3.7					
5 保健安全体育	○安全指導の徹底	3.3	3.9	3.3	4.0	3.6	3.6	○今年度は保護者の協力で、歯の治療率100%を達成することができた。また、目の愛護デーの取組やメディアコントロールの日の設定するなど、健康的な生活の習慣化に努めた。 ○諸塚学校給食の日や弁当の日への取組を通して、諸塚村の農産物の素晴らしさに気付かせ、ふるさとを愛する心を育てることができた。食事のマナーについては、今後とも学校でも繰り返し指導していきたい。	A	A	・諸塚村は歯の治療率においては課題であるが、本校の歯の治療率が100%になったのはよいことである。家庭の協力が得られたことが大きい。 ・家庭の理解が得られていないと歯の治療率を上げるのは難しいが、養護教諭と保護者との連携もうまくいっているからであろう。
	○教科体育の充実と体力向上	3.2	3.3		3.9	3.5					
	○健康的な生活の習慣化	3.5	3.6		3.9	3.7					
	○給食指導の充実と衛生管理の徹底	3.6	3.6		3.8	3.7					

分野・領域	本年度の努力事項	評価の結果				平均	総合平均	学校の自己評価結果	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価（意見）
		職員	保護者	地域	児童						
6 人権教育	○積極的な関わり	3.4				3.4	3.5	○道徳や学級活動の授業、人権集会を通して、今後とも互いに認め合う、助け合う心の大切さを育てていきたい。 ○研修会や講習会へできる限り参加できるような体制を整えていきたい。	A	A	・何より子ども達が素直で、いじめが見られない状況は素晴らしいと思う。これからも目配りをお願いしたい。
	○具体的指導の充実	3.8				3.8					
	○研修会や講習会への積極的な参加	3.2				3.2					
7 特別支援教育	○理解を深める研修の充実	3.5				3.5	3.7	○特別支援コーディネーターを中心として研修や就学指導委員会を行い、児童の実態の共通理解を図るとともに、配慮が必要な児童については早急に対応し、共通実践を心がけた。 ○個別の指導計画や支援計画を整備して、個に応じた指導を充実しながら、児童の変容を記録するとともに、特別支援エリアコーディネーターや、関係機関と連携して支援体制を整えているところである。	A	A	・一人一人を大切に、成長を見届けてくださっている様子が伺える。
	○個に応じた学習面、生活面の児童への指導の充実	3.6	4.0		3.8	3.8					
	○関係機関との連携等、支援体制の確立	3.8				3.8					
	○保護者、地域への啓発活動の充実	3.2				3.2					
8 情報教育 国際理解 福祉教育 環境教育	○コンピュータ活用による情報活用・処理能力、情報モラルの育成	3.4			3.5	3.5	3.7	○e-ラーニングという学習ソフトを活用し、一人一人の設定・登録を行い、学習の成果がみえるように整備したことで、進んで取り組む姿が見られるようになった。 ○新学習指導要領の移行期間で、ALTを活用した授業実践を積み重ねるとともに、研修の機会を多くし、目標が達成されるように努めたい。 ○せせらぎの里の訪問については、せせらぎの里の方の協力もあり、年々充実したものになっている。 ○寿会との交流は、保護者の方の協力をいただきながら、さらに交流が図られるように取り組んだ。	A	A	・せせらぎの里の訪問では、車椅子体験やふれあい活動において、読み聞かせやゲームなど児童が主体となって活動している事が分かった。内容も年度毎に工夫されているので、教育効果も高いであろう。
	○ALTとの交流活動の充実	3.8			4.0	3.9					
	○施設訪問や寿会との交流推進	3.6			3.9	3.8					
	○環境学習の充実	3.4			4.0	3.7					
9 教育環境	○校内美化の推進	3.3	3.6	3.3	3.6	3.5	3.5	○栽培活動を充実させるために、今年度から業間の時間に定期的に学校園や学級園の花壇の整備を行ったり、育てた草花を配ったりする活動に新たに取り組んだ。 ○今年度は、職員作業で校舎3階の壁の塗り替えや、グラウンド整備を行った。また、備品の点検を行い、理科室やコンピュータ室等の特別教室を夏季休業中に整理した。	A	A	・教育環境については、保護者や地域の方々の協力もあり、整備されている状況にあるが、今後は、外部人材の活用等も視野に入れていくとよいのではないかと。
	○学校園、学級園の整備	3.4	3.6	3.4	3.8	3.6					
	○学習環境（コンピュータ室、図書室等）の整備・充実	3.4	3.8	3.3	3.8	3.6					
10 開かれた学校づくり	○学校だよりや学級通信等による学校の情報の積極的提供	3.7	3.9	3.3		3.6	3.7	○学校便りやホームページ、学級通信等の定期的な発行・更新により、学校生活の様子を保護者・地域等に発信できた。 ○地域の行事やPTA行事に対して、一地域住民、一PTA会員として積極的に参加し、保護者や地区民との交流を図ることで、信頼関係を築くことができた。 ○ひまわり保育所と、交通安全教室や魚の放流体験、いもほり、運動会等合同での活動を充実させて、さらなる連携を図ることができた。	A	A	・少人数だが活気にみちている。教職員先生方が大変だと思うが、児童が地域を愛し、誇りを持った人間に成長してほしいと願う。私達は、すばらしい学校・児童達と感じている。
	○地域との交流や地域人材の活用	3.8	4.0	3.7		3.8					
	○PTA活動への積極的な参加	3.8	3.9	3.5		3.7					
11 学校運営の適切化	○分掌事務における責任の明確化と効率的な処理	3.7				3.7	3.7	○学校経営ビジョンの具現化のために、教頭、教務主任が中心となって組織間の連絡・調整を図りながら、「チーム七ツ山」として職員がお互いに協力し合って取り組んだことで、教育効果がより高まった。 ○コンプライアンス推進委員会を設置し「風通しのよい職場づくり」について教職員での意見交換を行い、一層の連携を確認した。また、研修を計画的に実施するとともに、サービスの日の取組や日頃の声かけで、コンプライアンスの徹底を図ることができた。	A	A	・先生方が僻地という環境で一生懸命がんばり、子ども達も素直に成長していることが素晴らしい。今後、15の春を迎えていく子ども達のために、精神力というか、自分の力で意思決定できるようなたくましさも、さらに身に付けてほしい。
	○各組織の連携強化	3.7				3.7					
	○教職員としての自覚と子どもたちや教育への愛情・情熱	3.7				3.7					